

言葉の意味

中 二

言葉とは、意味を表すために言ったり書いたりするものです。その言葉は使い方を間違えてしまうと人を傷つけてしまうことがあります。

私は、ニュースで、ある芸能人が自殺したということを知りました。その自殺した理由は、テレビに出演したことによるネットの誹謗中傷だそうです。あるテレビ番組でその芸能人が激怒してしまい、このシーンに対してかなりの誹謗中傷、バッシングがあったようです。しかし、その後、きちんと話し合い仲直りした場面が編集でカットされていたことが分かったそうです。そのせいで、その芸能人が悪く見えてしまい、誹謗中傷をたくさん受けてしまった可能性もあると思います。その芸能人は優しく、真つすぐで熱い性格だったそうです。そのような人が自ら命を絶ってしまったことは、とても悲しいことだと思います。また、亡くなる前にインターネットで「ごめんね」と投稿していたそうです。私は、その人が謝る必要は

ないと思います。確かに、怒ってしまったけれど、そのテレビ番組の編集やカットをした人や、自殺するほどまで追い込んだ匿名で書き込んでいる人たちの方が謝るべきだと思います。

インターネットでは匿名で書き込みができます。責任をもたなくてもよいと思います。結果、悪口を書き込む人たちが都合のよい道具として利用しています。放った言葉が命を奪えるほどの恐ろしいものだということを理解しないといけないことが改めて分かりました。

このようなことがある中で、私はある小学校の校長先生の講話の文章を見つけました。「いじめの矢と心」というテーマです。その校長先生は心の形をした模型に、「いやがらせ」や「からかい」、「無視」や「悪口」などのいじめの矢を次々と刺していきます。「いじめられた人の心には、こんなふうにかくさんの矢が刺さっています。心が疲れてしまう前に矢を抜かないといけません。自分で抜くことはできない。周りの人が声をかけたり、励ましたり、謝ったりすることで矢を抜くことができるのです。」

校長先生は声をかけながら矢を抜いていったそう

です。

そして「矢は全部抜くことができませんでした。しかし、矢が抜けた跡は残っています。このようにいじめの跡は残り、十年経っても消えない。だから、いじめは絶対に無くさないといけないのです。」と熱く語ったそうです。

この文章を読んで共感しました。どれだけ謝っても励ましても、傷つけられた嫌な思い出や心の傷は消えず、一生その人の心に残り続けます。いじめは一瞬ではなくて一生なんだと感じました。

また、言葉にも気を付けたいと思いました。実際に、自分の思った言葉を相手に言ったとき、相手には違う意味で伝わってしまい、気付かないうちに傷つけてしまっていたこともありました。表現や言い方などで自分の気持ちをより伝わりやすくなり、相手に伝わったときのことも考えたりすることが大切だと思いました。そして、言葉は使いたい方によって励ましたり、喜ばせたりすることができるけれど、間違えたり、よく考えずに使ったりしてしまうと人を傷つける凶器になってしまうことがあります。私も、お母さんから「大丈夫だよ。」と言われたときに安心したり、「頑張れ。」

と言われたときに勇気が湧いてきたりするので、私の言葉で全ての人を救えるわけではないけれど、励まし、勇気付けられるように使っていけたらいいなと思いました。

私もたくさんの人と関わるようになり、より言葉に触れることが多くなってきたので、一つ一つの言葉に責任をもちたいと思います。